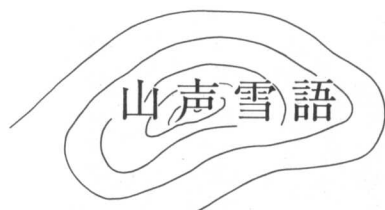


京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2708回★ 納山祭 白馬山 (957.3m)	12月20日 (土) ~21日 (日) 竹田駅西口集合 AM7:00	清水 康裕 吉田 武	20日 竹田駅—第2京阪・阪和道—有田IC—R424字井苔—林道—町塚…白馬山往復—R424湯浅町—「湯浅城」泊 21日 「湯浅城」—阪和道—R370・R480—高野山見学—帰路
備考 ・国民宿舎「湯浅城」泊。費用 約15,000円。			
第2709回★ 初登山 櫃ヶ岳 (3等△582.1)	1月12日 (月・祝) 集合 五条烏丸南西角 AM8:00	清水 康裕 堀田 剛 松田 誠二	五条烏丸—京都縦貫道—亀岡IC—R327・R173中宮代・櫃ヶ岳登山口…櫃ヶ岳…宮代—R173・R372亀岡IC—京都市内
備考 ・冬山装備必要。ぜんざいをします。			
12月の集会 日時 12月10日 (水) 18:30~ 場所 holly's café (ホリーズ カフェ)		12月の企画運営委員会 日時 12月18日 (木) 18:30~ 場所 holly's café (ホリーズ カフェ)	
1月の集会 (新年会) 日時 1月9日 (金) 18:30~ 場所 四条烏丸下る「かごの屋」		1月の企画運営委員会 日時 1月20日 (火) 18:30~ 場所 holly's café (ホリーズ カフェ)	



10月中旬に東北の旅をした。東北にはまだ登っていない山が数多くある。仕事から解放されたのを機に、車での東北縦断を企てた。まずは横浜の孫の世話をするという女房を送ってから北上し、岩木山・八甲田大岳・磐梯山・西吾妻山・安達太良山・那須岳の順番に登頂した。天候にも恵まれ、山麓の美しい紅葉も楽しむことができた。特に、八甲田から奥入瀬に至るブナ林の黄葉の見事さは素晴らしい。また東北のひなびたい湯も数多く満喫した。いずれも掛け値なしの源泉かけ流しばかりであった。東北の山々はアルプスのように標高は高くはないが、紅葉の美しさや山のいで湯といった楽しみも多く、味わい深い山登りが楽しめる。1週間ほどの山旅を終え、横浜の長男の家で女房を拾って京都に帰った。東北にはまだまだ登りたい山がたくさんあるので、来年もまた訪れようと思っている。

東北では宮古から松島までの三陸海岸を車で走り、東日本大震災の爪跡と復興状況を見てきた。海沿いの道路は復興のゼッケンをつけた大型ダンプが走り回り、砂埃を巻き上げていた。海岸沿いの平地部分は大概が津波で押し流されており、そこには高さ10～15m程度の台形状の盛土を造成している。最も大規模に造成しているのが、奇跡の一本松で有名になった陸前高田である。ここでは山を削った土砂を長大な大型ベルトコンベアで海沿いに運搬しており、観光名所になった一本松も盛土の台地で見えないくらいである。この大型造成工事は、高度成長時代に神戸市が行った埋め立て事業を思い起こさせる。六甲山脈の北麓を削り取って大規模ニュータウンを造成し、その土砂をベルトコンベアで海に運びポートアイランドや六甲アイランドといった人工島を造っていった。人口島には大規模集合住宅群やコンテナ埠頭などが整備された。当時、こうした神戸市の手法は「神戸株式会社方式」と名付けられた。三陸海岸の津波被災地のほぼすべてに見られるこの盛土台地造成であるが、その台地はまだ利用されていない状況である。先日、テレビのドキュメンタリー番組でも報道されていたが、山側に避難した人々にとって戻るかどうかは悩ましい問題である。津波の記憶は生々しく、商売をしていた人々にとっては顧客が戻ってくるかどうかの問題である。台地造成はおそらく復興事業として最も取りかかりやすい事業なのだと思う。防潮堤かさ上げは異論が多く、復興住宅は人出不足でなかなか進まない。山を削り、台地を造成することは大型機械があれば比較的簡単にできるし、津波がきたときの避難場所となるので住民の合意も得やすい。また大手ゼネコンにとっても地元土建業者にとっても確実に利益の出る工事である。

今、被災地の住民が最も熱望しているのは、鉄道の復旧だと思う。三陸鉄道は今年の春に復旧したが、宮古～釜石のJR山田線とJR大船渡線・気仙沼線のJR東日本が所管する線路は無残に破壊されたままである。第3セクターは公費を投入して復旧したが、JR区間は資本の論理が優先しているのである。

確かにJRは代替の新型バスを走らせ、バス停も屋根・壁付きの風雪を防ぐようなものを造って快適性をPRしているが、三陸海岸を一本の線路で結んでこそ真の復興と言えると思う。

(2014.11.10. 文責 S.I.)

音羽山～醍醐山縦走

清水 康 裕

京阪京津線大谷駅に集合したとき、参加者が7名だったので嬉しかった。数年前、森本さんと2人で音羽山…桜ノ馬場…高塚山…醍醐山の縦走を行ったときの思い出し一人心中でニヤニヤしていた。

蟬丸神社から歩道橋が崩れて未だ復旧していないので、関所跡の横断歩道を渡り、大谷の町から林業の作業道に入り、しばらくすると登山道に合流した。いつもの通り急登の階段が長い。NTTの電波塔を経て、音羽山の山頂に着いた。快晴のため、眺めは最高に良い。比叡山までの間に高い山が無いことや、東海道新幹線が音羽山の真下を貫いていることなどを再確認した。それから、パノラマの無いパノラマ台で小休止し、石山方面との分岐点のベンチに腰掛け、少し早い昼食をとった。そして、東千頭岳山頂、西千頭岳山頂を踏んで、西千頭岳では森本さん携帯のビールで乾杯させてもらい、万歳三唱した。京都国際カントリークラブゴルフ場を横切って、高塚山付近から来ている尾根の舗装道で醍醐山へ行く計画であった。事前調査のときは、間違っ醍醐一ノ切町という山間の集落に下りて、石山寺まで2時間歩いた苦い経験があったので、今回は同じ間違いはしない。

ゴルフ場はすでに倒産していた。クラブハウスの建物まで下って小さなトンネルを潜ったが、ゴルフコースのカート道が続くだけで、ゲートになかなか辿り着かない。出口を見つけて、登山道らしき所に出られたが、すぐに登山道が途切れた。藪を漕ぎたくないので来た道に戻り、再びゴルフ場の中へ入って小休止した。堀田さんがスマホのGPSで我々の位置確認と出口を調べた。北西の高塚山へ向かって歩くと出口があることがわかった。その方角に他の登山者も一瞬見えて、ゴルフコースを少し登った。そのコースのピークに来ても出口が無いので、少し下った。すると出口があった。ゴルフ場のなかでは、元々の登山道がゴルフコースによって寸断されてしまったのか、進む道の判断が難しいと身に染みて感じた。その出口を出て、無事舗装道に出られた。

その舗装道を下ると横嶺峠に着いた。そのあと、そこから下醍醐へ下った。そしてパセオダイゴローまで歩き、森本夫妻、渡辺夫妻と岡本勇さんは喫茶店で休んでから帰られ、堀田さんと私は喉を潤す挙動に出た。

【参加者】 岡本勇、堀田剛、森本清一 F1、渡辺智生 F1、清水康裕

【コースタイム】 10月18日（土）

京津線大谷駅8：55…9：03一等水準点…10：05NTT電波塔…10：40音羽山山頂10：50…11：10パノラマ台…11：30京阪石山寺駅方面との分岐 昼食12：10…12：40東千頭岳12：45…13：00西千頭岳 二等三角点601.8m…13：30京都国際ゴルフ場入る…13：55ゴルフ場を一旦出る…14：05ゴルフ場に再び戻る…14：35ゴルフ場を出る…14：45醍醐山と高塚山への分岐…14：55横嶺峠15：00…15：40下醍醐寺…16：00地下鉄醍醐駅

【個人山行】

秋の 甲州 金峰山 (2,595m) と石鎚 瓶ヶ森 (1,896m)

木 原 滋

10月14日の出発予定で、山梨県側から金峰山頂泊まり、信濃川上へ出て、北八ヶ岳の峠をいくつか越える5日間の山歩きを計画していたが、14日は台風の直撃があり、15日(水)早朝の出発となった。名古屋と塩尻で乗替で、13時03分に韭崎着。13時30分発の山梨峡北交通の瑞牆山荘着。途中の溪谷は紅葉のまっ盛りで、「あすは快晴になる」との天気予報があった。10月16日(木)7時に山荘を出発。富士見小屋までは何回か歩いた道で、ゆっくりと紅葉を楽しみながら登って行けるつもりであった。しかし、久しぶりの5日間の計画で、大きいほうのリュックで10キロの荷物になったことが、「こんなに大変か?」とおもうほど、バランスが悪くなって、段差が少し大きな所に来ると、「ツエをタヨリ」だけでなく、腕力も必要になってくる。10時をすぎた所で少し休憩をしながら、行くか、引き返すか、を考えて、「迷った時は引き返す」ことにした。北八ヶ岳の峠歩きも、バランスが悪いことは同じなので残念ではあったが、今回は中止することにして、甲府に宿泊。17日(金)は県立美術館、考古博物館、等の甲府近くの行ってみたかった所を見てまわり、静岡から新幹線で京都に帰って来た。

金峰山頂への失敗があったので、その続きということではないが、5年前に石鎚山へ登った時に、天候が悪くなって登れなかった瓶ヶ森に行きたいと考えて、交通関係を調べてみると、11月末までの休日は松山から土小屋までのバスは運行されている。地元の宿泊施設に電話で聞くと、11月1日、2日、3日の連休の頃が良いのではないかと。11月3日に山小屋を閉じに行くので、「その時だったら土小屋から瓶ヶ森の駐車場まで乗せて行ってあげる。」とのありがたい話であった。11月初めの予報は悪天候で、2日も余り良くないとのことであったが、前日になって、明日2日(日)は曇り後晴れになって、3日(祝)は好天候の予報になった。11月2日、7時20分発の新幹線ひかりで出発、岡山で乗り替えて松山着11時15分。12時20分のバスで久万営業所で乗り替え。面河までは、テントで面河泊りの岡山大生と2人だけの乗客で、モミジの紅が最高の季節となっている。ここからは黄色が多くなって、青空に全面的黄葉が映える溪谷も、1,500mの土小屋に来ると散ってしまっ、晩秋の影色にかわって来る。11月3日(月・祭日)。6時15分朝食。7時15分出発の車に乗せてもらって瓶ヶ森駐車場に8時着。瓶ヶ森(1,896m)から東之川へ下る予定。この道は1982年に一度歩いた、と話していると、「その頃の道とは今は違うと考えて行った方がよい。」と分岐点の注意等の話があって、もし東之川へおりるのをやめた時は、14時までに山小屋の方に来れば、山小屋の従業員で松山へ帰る者にたのんであげるとのこと。天候は良いが、風が強く、笹原の中の木道は少し凍っている。氷見二千石原と言われている笹原を少し登ると、思いがけない見事な霧氷が出来ている。稜線に出るとスバラシイ霧氷の中を、9時30分瓶ヶ森山頂1,896m。良い季節と良い天候と美しい霧氷の山頂の展望にめぐまれて、今日ここに来て本当によかったと思う。10時10分、廃屋になっている瓶ヶ森ヒュッテの所から東之川の方に入る。少し歩いて、沢のようにになっている所を過ぎると急な下りとなる。3時間位で東之川の車道に出られると聞いていたが、ジグザグの細い道がどこまでも続いている様な感じになって、14時10分小さな吊橋を渡ると東之川の車の道に出た。しかし車の道はかなり長い期間、車の通っていない様子で、西之川のバス終点の少し奥までは歩くひとだけが通れる修理しかされていなかった。14時45分西之川バス停着、地図で標高を見ると、バス道は400?mになっている。1,896mの

瓶ヶ森山頂から1,500m 近い標高を、「たよりなくなっている足がよく持ちこたえてくれた。」とここに来て思う。

15時15分発のバスで西条へ、特急と新幹線を乗り継いで20時30分に帰宅。あまり早く帰って来たのでビックリされたが、今年の秋はよき山歩きが出来たと思っています。

【個人山行 11月12日 (水)】

「繖山から猪子山」

繖山 2等三角点 432m 猪子山4等三角点267,5m

吉 田 武

猪の干支年（2007年）納山祭以来の山行で、今回は僕と友達3名で登りました。北腰越峠の空き地に駐車して車止めからすぐに階段の上りになった。標高差330mほとんどが階段の敷設された登山道、途中で友達が観音正寺で納経したいと言うので先行してもらって繖山から観音正寺を往復して繖山まで登ってもらった。繖山で合流して三角点で写真を撮って地獄越えに向かった。この辺の植生は広葉樹林が多いので美しい紅葉が見られたが、地獄越えを過ぎたあたりからは植生が変わり、針葉樹林が多くなって少し薄暗い感じがした。展望台が何か所かあつてが、今日の天気はうす雲が広がって西の湖や琵琶湖がぼんやりと見えた。猪子山4等三角点を過ぎて北向観音でまた琵琶湖側を展望したら、このときは天気も良く、遠くまで見渡せた。北向き観音からは急な階段を下りて猪子町からJR線に沿って約1時間歩いて北腰越峠に着いた。



例会報告

例会 No	目的地	天候	月 日	担当者	参加者	記 事
2702	音羽山～醍醐山縦走	晴	10月18日(土)	清水康裕	堀田 剛 岡本 (勇) 渡邊智夫 F1 森本清一 F1	別稿詳報
2703	北摂鎌倉峡と百丈岩	曇り	10月26日(日)	岡田茂久	方山 宗子 渡邊智夫 F1	次号詳報
2704	加賀大日山と加賀甲		11月3日 (月祝)	井戸澄夫		都合により中止しました。

雑 報

△△△ 11月の集会

日 時 11月11日 (火) 18:30～
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
出席者 井戸, 大槻, 岡田茂, 方山, 河村, 堀田, 森本, 吉田, 渡辺, 和田, 清水
計11名
内 容 例会結果, 例会予告, 個人山行, 岳連関係報告ほか

△△△ 10月の企画運営委員会

日 時 10月20日 (月) 18:30～
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
出席者 方山, 堀田, 吉田, 清水
内 容 例会予告, 岳連関係報告ほか

△△△ 他山岳会の会報 (受贈分)

11月号 京都山岳, 趣味の登山, 青嶺, 比良山岳, 木雞, わっぱ

△△△ 平成26年度部費徴収のお知らせ

平成26年度の部費を徴収します。年額6,000円 (メール便で送付の方は7,000円) です。企画委員か会計担当 (岡田浩) までお届け下さい。

△△△ 平成27年1月集会兼新年会のお知らせ

担当者 松田 誠二
清水 康裕
堀田 剛

日時 平成27年1月9日（金）18：30～

場所 「かごの屋」四条烏丸下ル 地下鉄四条駅6番出入口前

TEL 075-353-8936

※京交山岳部 清水名で予約しました。

会費 5,000円（当日徴収）

参考 参加希望者は、1月6日（火）までに必ず担当者まで連絡をお願いします。

△△△ 日本山岳協会山岳共済保険のお知らせ

平成27年度の山岳共済保険の案内が届いています。継続加入希望の方、及び新規加入希望の方にはパンフレットをお渡ししますので、担当者に連絡願います。

担当者 井戸澄夫